

LA DOLCE VITA

海とイタリアをこよなく愛し、ワイン、アート、マリン文化に深い造詣を持つ伊藤英一氏。氏がこれまで体験してきた地中海のマライムの煌めきを中心に、海と食とボートに関わる彼らのライフスタイルを語る。

text & photo: Eiichi Ito

#21 フォルテ・デイ・マルミとCCN造船所訪問

フォルテ・デイ・マルミ Forte dei Marmi

フィレンツェが州都のトスカーナ州は、地中海最大級のビーチリゾートがある事で世界に知られている。フィレンツェから西に約1時間程車で走ってティレニア海(地中海の一部)に出た一帯には広大なビーチが広がっている。ビーチの延長は何と46kmにもなるという。特筆すべきは砂のビーチがただ延々と続いているのではなく、奥行きのあるビーチは幅約100m程毎に区切られ、それぞれが一つの海浜リゾートクラブとなっている事だ。カフェありレストラン、プールにシャワー、ナイトライフも楽しめるクラブやディスコ等じつに充実している。それらのビーチクラブが46km

の間に数百と続く様は壮観である。ビーチに沿ってホテルやショップ、バーやジェラテリア、トラットリアの数も非常に多いので、アフタービーチでの散策や買物が大いに楽しめる。

その一角にフォルテ・デイ・マルミという素敵な街がある。一帯のビーチリゾートで最もエレガントなこの街はヨーロッパではよく知られている。余談になるが、ファッションブランドのグッチやエルメス等が地中海の特別なご当地グッズを出す事がある。その時に取り上げられる海浜リゾートが南仏のサントロベ、リビエラのポルトフィーノ、サルデーニャ島のポルトチェルボだが、その一つにフォルテ・デイ・マルミも含まれている。街には木造二階建の小粋なショップが立ち並んでいて、ショッピングには心踊る。また近く

の漁港から水揚げされる新鮮な魚介を使った極上の食にも巡り会える。

街の半径500m以内に10以上のミシュランガイドとガンベロロッソに掲載されているレストランがあり、その内の4カ所が星付きである。周辺の街を加えるとその数限りなく、この地域が如何に食のリゾートとして充実していることがわかるというものだ。ミシュランの星付きが全てとは言わないが、まあこれほどの星付きの店が集積しているリゾートは珍しい。その中でも「ロレンツォ (Lorenzo)」の美しい前菜と名物の姫アサリのスパゲッティニは忘れられない一皿である。一皿に数百個は入っていると思われる極小のアサリはこの辺りの名物である。

ミシュラン付きでなくても、素晴らしい魚介を食べさせるトラットリアやオステリアも数多くある。「ベッシェ・バラッカ (Pesce Baracca)」は店頭はその日に入荷した魚介が山積みされているから、選んで調理して貰える。価格もリーズナブル、魚介のフリットとカチュッコ(魚介のブイヤベース)が絶品だ。

ある夏、フォルテ・デイ・マルミの街から見た山々の一部が白いのに驚いた。雪と紛うばかりなのだが、実は大理石の砕石場なのだ。かの有名な世界で最も白いと言われるカッラーラ大理石が陽光に照らされ白く輝いていたという訳である。ヴァチカン市国サ



フォルテ・デイ・マルミの街からは、夏でも雪山と見紛うばかりの大理石採掘場の真っ白な山肌を望む事ができる。街のあちこちにはピアンコ・カッラーラ大理石でできた彫刻やベンチやプランターがさりげなく置かれ、街の雰囲気や優雅で格調高いものにするのに役立っている。



海岸通りの「ベッシェ・バラッカ」の店頭に並んだ近海物の豊富な魚介類。威勢のいいお兄ちゃんとあれこれ言いながら料理を決めるのが楽しい。「ロレンツォ」のホタテとキャビア、小粒のムール貝のんにくオープン焼きのそれぞれの一皿は、見た目の美しさと共に舌鼓を打つ事しきり。



ピアンコ・カッラーラ大理石の工場に囲まれたCCN造船所では、アーネソン製サーフェスドライブ装着の86スポーティング・フライングブリッジ艇と、カメワ製ウォータージェットドライブ装着の92フィート、シャフト艇137フィートのスチール製ロングレンジ艇等が建造中だった。

ン・ピエトロ大聖堂のミケランジェロの最高傑作ピエタ像もこの石が使われたという。街のあちこちには純白の大理石のベンチやオブジェがさり気なく街に溶け込んでいる。この街を散策すると古代ローママルネッサンス時代に思いが巡る。

フォルテ・デイ・マルミから少し内陸に入ったところがカッラーラ砕石場だ。「007 慰めの報酬」では映画の冒頭、ダニエル・クレイグ演ずるジェイムズ・ボンド運転のアストンでのカーチェイスが繰り広げられたのは、このカッラーラの採石場だった。その後トスカーナのシエナの街に車を乗り入れるシーンへと続く。

スーパーヨット造船所CCN訪問

スーパーヨットビルダーのCCNはフォルテ・デイ・マルミから砕石場へと向かう途中に位置している。造船所の周りにはカッラーラ大理石を扱う会社も多く、大きな大理石のキュービックが積み上げられた工場を通り過ぎて巨大なCCNの建屋に到着。ゲートのイン

ターフォンで名前を告げると、スケールモデルが飾られたプレゼンルームに通され、プロジェクターの映像でプロダクト艇のプレゼンを受ける。

CCNが製造するプロダクト艇の、86、102フィートのFRP製スポーティング・フライングブリッジは、サーフェスドライブ装着で最高速40ノットを誇る。セミカスタムのアルミ艇は、90、115、137フィートのラインナップがある。近年はアルミ製オーシャンゴイングのカスタムヨットビルダーとしても躍進していて、昨年は130、150、165フィートも建造している。巡航12ノットで5,400ナウティカマイルのロングレンジを達成している。

造船所建屋に移動すると、巨大な何艇もの建造中ハルから溶接の火花が散っていた。その中の1艇は92フィートの高速スポーティングフライである。Studio Spadolini デザインの流線型の船体にMAN 1,900hp 3基掛け、Kamewa製ウォータージェット2基に1基のブースターで40ノットを叩き出す。建造中の足場の間から垣間見えるウォーター

ジェットの大きな開口部が眼前に迫り迫力満点である。

超名門イタリアンスーパーヨット造船所のバリエット (Baglietto) と、近年復活したアメリカのバートラム (Bertram) を傘下に持つイタリアのコングロマリットであるガヴィオグループ (Gavio Group) に、CCNも属している。豊富な資金を背景に世界中からスーパーヨットのオーダーを受け、生産はフル回転の様だ。

2008年のリーマンショック以来、イタリアンビルダーも他の産業同様苦難の時を過ごしたというが、再編されたイタリアのビルダーは漸く勢いを増し再び世界をリードしている。いずれにせよ世界最高の品質、デザイン、生産量を誇るイタリアンビルダーが益々活気を帯び、素晴らしい艇を生み出し続けて欲しいと思うのは僕だけでは無いだろう。PB.

Profile

伊藤英一
事業家。ボート歴は10代から既に半世紀以上。欧米の多くのリゾート地を訪れ、その土地の食やワイン、アート、音楽等に触れることを至上の喜びとしている。RIVAとRIBの熱烈な愛好家。